

# ガーナ共和国



## Vol.1 お祝いはダンスで♪

今回は、ガーナ共和国ご出身で、現在は日本に生まれているカルロスさんにお話を伺いました。

**カルロスさんの生まれたガーナ共和国は、どんなところですか？**

気候は常夏ですが、日本の猛暑のような暑さは滅多にありません。私はガーナの中でも首都圏に近い所に住んでいたため、常に海側から風が吹いていて、暑くても木陰に入れば涼しくなります。雨季以外はカラッとしていて湿度はそれ程ありません。一番過ごしやすい時期は、日本と違って8月～9月頃です。(日本の初秋のような気候です)逆に一番暑いのは12月～3月頃になります。(猛暑に近く、夜も眠れないほどの暑さにもなります)

町並みは、首都についてはきれいに整備されていて近代的な建物も沢山ありますが、少し郊外になると道路も両端はざっくり切れていて、中心のみが舗装されているような状態です。高いビルは殆どなく、古くからの石造りの平屋が一般的です。



**ガーナは『カカオ豆』の原産国で知られていますが、その辺りはいかがですか？**

意外に思われると思いますが、ガーナの人達の多くはチョコレートやココアを日常的に食べていません。何故かと言えば「高価」なものだからです。外貨を稼げる重要な産物であり市民には手軽に口に入れるものではないのです。長いこと日本にいたので現在の物価を正確には把握できませんが、板チョコレート一枚の値段は、市民が食べるローカルフードが2人分は買える値段になります。

**次に、日本での暮らしについて教えてください。暮らしてみて、どんなところが大変でしたか？**

マンション探しなど、契約書を交わす事に関して「外国人はダメ」と言われるのがとても辛かったです。「きちんと永住許可をもらっているのに何故だろう？」と思いました。

**では逆に、どんなところが「いいな」と思いましたか？**

電車やバスが時間通りに来ることですね。日本人は本当に忙しいんだなと思いました。それに、どこの町もきちんと整備されていて美しいですね。

**『これは違うな』と思うこと、驚いたこと、戸惑ったことを教えてください。**



私も日本に来る前は、日本人は皆チョンマゲをして刀を差しているものだと思っていましたが、日本人のアフリカ人に対するイメージが偏っていることに驚きました。確かに、皆さんが想像するような所もまだアフリカには存在していますが、アフリカは凄く大きくて沢山の国があるから、私自身も知らないことが沢山あると思います。よく聞かれるのが「象やライオンがいるんでしょ？」とか「アフリカの子供達は栄養失調で可哀相だね？」などですが、私の国にはいませんよ！

ガーナでは近隣諸国からの難民も受け入れています。餓死するほどの状況を私はまだ国で見たことはありません。それに私は、日本に来て生まれて初めてライオンや象を動物園で見ました。

**次に、お祝い事について教えてください。お誕生日はどのようにお祝いしますか？**

あくまでも私のファミリーに関する事ですが、誕生日は誰にでもあるものなので、それ自体を特別に祝うものではないと考えています。年を取ったからといって偉いわけでもないですからね。それよりも、一生懸命努力をして何かを成し遂げたときこそ、黙っていても誰かが祝ってくれます。それに、例えば誰も祝ってくれなくても、自分こそ「自信」という素晴らしい結果が生まれますので、お祝いこそはこだわりません。でも今は日本人と結婚して、妻と娘は毎年誕生日を祝ってくれます。それはそれで凄く嬉しいし、今年も家族が皆元気で無事に年を重ねられたということに感謝をしています。

**その他クリスマスに関するお話**

私はイスラム教徒なのでクリスマスのお祝いしません。でもガーナではイスラム教徒とクリスチャンがとても仲良く共存していて、学校でクリスチャンの友達にイベントに誘われたりすることはあります。クリスマスにクリスチャン達はバスケットやお菓子を近所に配っていました。



私達イスラム教徒のお祭りは、ラマダン(断食月)明けの「イード」です。これはイスラム暦の正月にあたるので、盛大に新年のお祝いします。

この日は、まず朝起きたら、モスクに行き新年のお祈りをします。そして、モスクでのお祈りが終わると祖父母や父母の家に行き挨拶をして、親戚中が集まって食事をしたりダンスをしたりします。ガーナでは、お祭り事があると必ず「ダンスパーティー」になるんですよ。

**お祭り事では必ずダンスパーティーをするというガーナの人々。食事を囲み、家族や親戚と一緒にしてお祝いをしている様子は、とても楽しそうですね。**

**今回は、『結婚式』についてお届けします。お楽しみに★**

# ガーナ共和国



## Vol.2 結婚式はエンドレス!?

前回に引き続き、今回もガーナについてお届けいたします。

### 『結婚式』の場所や形態について教えてください。

結婚式は人生の一大イベントなので、その家族が出来る、精一杯のお祝いをします。

私達の結婚式は、ごくごく近所や近所に住む親戚だけに限りませんが、それでもどのくらいの人か来たのかは数えられません。何故ならば、通りがかりの見知らぬ人でさえも参加出来るパーティーだったからです。

参加してくれた人口は、誰にでも食事を振舞います。パーカッションのバンドを呼んでのエンドレスとも思えるダンスパーティーは、家によっては3日間も続く事も珍しくはないんですよ。



基本的にパーティーは自宅の敷地内で行いますが、最近ではホテルを借りて今時らしいパーティーをする若者達も出てきたそうです。

食事は親戚や近所の女性たちが大鍋で作ります。残念ながら写真がありませんが、人がひとり入ってしまうほどの大鍋で、トマトベースのシチューを作り、ライスやとうもろこしの粉を練って蒸したものと一緒に食べます。



また、結婚するときには花嫁となる女性は、「レツリ」と呼ばれる、特殊な植物による装飾を手足に施されます。

それはヘナと呼ばれる植物で、その植物を煮た汁を粘土に加え、手足に厚く塗ってビニールで覆い1時間ほど待ちます。すると朱色に手足が染まり一ヶ月ほど落ちなくなります。粘土を塗る時にステンシルなどで模様をつけたりする人もいます。

ですから、このように朱色の手足をしている女性を見かけると、一目でその女性が新婦であることがわかるので、すれ違う人々は「アメリア」と声をかけます。＊アメリアとは「花嫁」という意味です。



### 次は、『家族』について教えてください。

家族にとって、お母さんやお父さんの存在とはどういうものですか？

両親の存在は絶対のものです。母親は優しさの象徴であり、父親は強さの象徴です。

### 子育ては夫婦でしますか？

基本的に母親は家と子供をケアするというのが一番大事な仕事になります。

ですから、子育ては女性がするもので、子供の時を除いて男性は子育てには関わりません。オムツを替えたりお風呂に入れたりしたら近所の笑いのものになりますし、もし男が子供のオムツを替えているところを誰かに目撃されたら、妻は「悪妻」のレッテルを貼られることになるでしょう。

日本でも(というより先進国でも)子育ては両親でするもので、私自身も娘の世話は積極的に行っていますし、日本やその他の先進国にいる兄弟や友人たちも皆、子育てには参加しています。

子育てがこんなに楽しく幸せなことなのに、それをさせてもらえないのは本当に残念なことだと思います。



### その他、女性と男性の文化について教えてください。

アフリカは基本的にまだ封建的な世界です。男性と女性の役割もはっきり分かれています。

ちょうど昔の日本と同じような考え方ではないでしょうか。

簡単に言えば、男は外で働き、女は家を守る。

家長制度もまだ健在なので、年功序列は絶対です。男同士であっても、たとえ1ヶ月だけしか年が違わなくても年上に対してのリスペクト(尊敬の意)はあります。

例えば、一緒にテーブルを囲んで食事をすると、(殆どの場合男女別々に食事をします)食事の食器を片付けるのは最年少者の仕事です。何か物を配る時でも最年長者が一番先で、年の順に渡されるので誰が一番年上かがすぐにわかります。

通りすがりの人も気軽に参加できる結婚パーティーや、『レツリ』を施した花嫁さんには必ずお祝いの言葉を投げかけるガーナの人々。

このように、地域が一体となり結婚をお祝いしてくれるという風習はとても素敵なものですね。

次回でガーナは最終回です。

最終回は、『ガーナと日本の文化』についてお届けしますので、どうぞ楽しみに★

# ガーナ共和国

## Vol.3 ガーナと日本の文化



今回で最終回の『ガーナ編』

最終回は、カルロスさんから見たガーナと日本の文化全般についてお話を伺いました。

日本の食べ物で苦手なものはありますか？

私は日本食は大好きで、納豆ととろろ以外は殆ど食べられます。  
また、家で定番は焼き魚に味噌汁、そしてお漬物です。  
もちろん、自分でガーナ料理を作ることもありますよ。  
よく作るのは、トマトと玉ねぎがベースのシチューで、鶏肉をフライしたものを加えたり、魚を加えたりして、ご飯にかけて食べます。



日本の中で好きな場所はありますか？

京都に旅行をしたことがあります。古い町並みやお寺、五重塔などはとても興味があります。

日本で暮らしてみて気付いた自分の国の良い所&悪い所はありますか？

どちらも沢山ありすぎて書ききれないなあ。  
当たり障りのない簡単などろでいくと、日本人は約束をちゃんと守ることかな。



ガーナについて言えば、義務教育をもっと徹底して誰もが勉強する機会を与えて欲しいと思う。アフリカの中では、ガーナはいい方かもしれないけど、それでも小学校就学率は、まだわずか35%くらい。

日本の子供達は世界レベルから言うと宝くじに当たったような幸せな環境なんだけどね。それをありがたいと思えないのは何か間違っていると思うよ。



良い機会だから思っていることを言いますが、私が日本人に対して信じられないと思うことは、簡単に自殺を考えたり、実行してしまうこと。もしアフリカ人がみんな日本人と同じ理由で自殺するとしたら、今頃アフリカは全滅していますよ。私達は宗教的な考え方も勿論ありますが、自殺なんて絶対にしません。

何故なら人間誰だっていつかは死ぬのです。  
いじめられたから、借金が返せないからという理由で自殺を考えている人がいたら、ガーナでなくても是非途上国を一度訪れてみて、いかがかと思えます。朝昼晩とご飯を食べられない人も世界には沢山いますし、学校に行きたくても行けない子供達も沢山いるのです。途上国の現実を知ったら、日本に生まれて日本人であるということがどんなに恵まれた「宝くじ人生」であるかがわかることでしょう。

まず、どうやって生き抜いていくかを考えるべきではないでしょうか。

私個人の事ですが、私には上に姉兄2人と下に兄弟姉妹が10人以上います。

私は勉強が大好きで子供の頃からクラスでもトップのほうでした。高校までは何とか親戚に頼って卒業させてもらえましたが、大学に行きたくても家は貧しくて経済的に無理な状況でした。

それでも諦めきれずに、とうとうある日、母に「大学に行きたい」と言いました。

母は黙って自分の部屋へ行き、家にある全財産を出してきて私に見せてくれました。

そして「もしあなたがどうしても大学へ行きたいならこれで行かせてあげることができるわ。でもこれを全部あなたに使ってしまったら、下にいる弟や妹達は誰も学校へ行けなくなるの」と言いました。



その時に、私は大学に進学する夢を諦めて、家族の為に働きに出る決心をしたのです。

私の大学進学は叶いませんでしたが、私が働いたお金で下の弟妹達は全員高校まで卒業することができ、すぐ下の弟はヨーロッパで大学を卒業することが出来たのです。

私にとって一番嬉しかったことは、兄弟に皆教育を受けさせてあげられたことです。

自分の夢が叶ったのと同じことだと思っています。



たくさんの物に囲まれて過ごすうちに、少しずつ失われてしまう『感謝の気持ち』。  
今回のカルロスさんのお話は、そんな『大切なこと』について考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

次回は『バンガラデシュ』からのお話をお届けします。